

## 岡山県地域医療支援センター運営委員会 平成 29 年度 第 2 回会議【議事要旨】

1 日 時：平成 30 年 2 月 13 日（火）15:00～16:20

2 場 所：岡山県医師会館 5 階 501 会議室

3 出席者：別紙のとおり

### 4 議題

- (1) 副会長の選任について
- (2) 岡山県地域医療支援センターの運営状況について
  - ① 平成 28・29 年年次報告
  - ② 平成 29 年度事業実施状況及び平成 30 年度事業実施計画

### 5 その他

- (1) 平成 30 年 4 月から地域勤務を開始する地域卒卒業医師の勤務病院の決定について
- (2) 第 8 次岡山県保健医療計画に基づく地域卒卒業医師の配置方針の検討について
- (3) 医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会 第 2 次中間取りまとめについて

### 6 議事要旨

#### (1) 副会長の選任について

※ 委員から推薦はなく、事務局案として、岡山県へき地医療支援会議会長の大塚文男委員（岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 総合内科学教授）を推挙し、全会一致で承認された。

#### (2) 岡山県地域医療支援センターの運営状況について

- ① 平成 28・29 年年次報告
  - ② 平成 29 年度事業実施状況及び平成 30 年度事業実施計画
- ※ 事務局から説明を行い、承認された。特に意見はなかった。

#### (3) 平成 30 年 4 月から地域勤務を開始する地域卒卒業医師の勤務病院の決定について

事務局から、平成 30 年 4 月から地域勤務を開始する地域卒卒業医師 3 人の勤務病院の決定と、その決定手続きについて説明があった。

なお、委員からは次のような意見があった。

- ・ 今年度のマッチング結果でも高梁市と真庭市の病院に決定し、新見市の病院は候補になったものの医師が配置されなかった。やや公平性に欠けると思うが、今後、配置方法の見直しを検討する必要があるのではないか。
- ← 地域卒卒業医師の配置方法については、医療対策協議会などでの意見を踏まえ、夏のワークショップまでには検討したい。（事務局回答）

#### (4) 第8次岡山県保健医療計画に基づく地域卒業医師の配置方針の検討について

事務局から、平成30年度から平成35年度を計画期間とする第8次岡山県保健医療計画素案において、パブリックコメントを踏まえた上で、地域卒業医師を配置する保健医療圏について検討していくことと、県内の医師の診療科偏在の是正について検討していくことを記載し、地域医療支援センターでは、検討に向けて調査・分析を進めていくことについて説明があった。

なお、事務局からは次のような補足説明があった。

- ・ 広島県では、病理診断科を希望する地域卒業医師は、中山間地域での勤務を免除するという制度がある。このように、他県には、特定の診療科を希望する地域卒業医師には一定の優遇措置を設けている場合がある。

#### (5) 医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会 第2次中間取りまとめについて

事務局から、国はさらなる医師の偏在是正を目指し、都道府県における医師確保対策の実施体制を強化するために、医師確保計画の策定について医療計画に記載することを法律上に明記すること、また、医療対策協議会の実効性を確保するため、構成員や議題が重複すると考えられる医師確保対策の推進に関するその他の協議体（例：地域医療支援センター運営委員会、へき地医療支援機構運営委員会など）の機能を医療対策協議会に移管することなどを主旨とした医療法と医師法の改正を目指していることの報告があった。

なお、委員からは次のような意見があった。

- ・ 2、3年前、国のへき地保健医療対策検討会の構成員として議論に参加していたが、以前から、国レベルでも、地域医療支援センターとへき地医療支援機構の統合は必要とされており、これを地方レベルでも実現しようとする動きである。
- ・ 医師確保計画は、地域医療構想とも関連してくる大変重要な話題だと考える。
- ・ 大学医学部の地元出身卒については、岡山市出身者が県北で勤務するのではなく、県北出身者がふるさとに帰って地元で貢献できるようサポートすることが本来的には望ましいことと考えている。
- ・ 医師を派遣した医療機関への経済的優遇措置について、当院は、社会医療法人として、他自治体からの要請により、へき地診療所に週半日医師を派遣しているが、派遣先の自治体から支給される給与を当該医師の給与に充当し、欠勤扱いすることなく貢献してもらっているが、このように地域では厳しい環境にあることを理解していただきたい。

#### (6) その他

その他について、委員からは次のような意見があった。

- ・ 当院で地域勤務を行っている医師が退任後、後任の地域卒業医師が配置されるかどうか心配しており、地域卒業医師の研修を受け入れる際に積極的に病院の魅力発信に努めている。
- ・ 資料1（年次報告書）の13ページの「実習協力施設一覧」に落合病院が入っていない。提案であるが、地域卒業医師にとっても、候補病院で予行演習をしておけば病院選択の参考となるので、候補病院となる可能性の高い病院が積極的に手挙げして、地域医療実習を受け入れるように努めれば、双方にとって望ましい結果にな

るものと考えている。

- 地域医療実習として、1週間から、地域枠ではトータル6週間にわたり、多くの医療機関に受け入れていただいている。地域医療実習を行った医療機関に、何年か後に研修生として、あるいは医師として戻ってくる可能性もある。地域で医師を育てて、その医師が将来地域に戻ってくるような流れを作れるよう努力している。
- 大学医学部の地元出身枠の設定については賛成である。奨学金に加えて寄附講座による地域医療教育を行っており、必ず教育をセットで考えることが必要であり、各自治体で奨学金の制度を設ける場合は協力したい。島根県では、島根大学に、松江市と出雲市以外の市町村出身者を対象に、将来はそれぞれの地元で貢献してもらうことを目的とした地域枠制度があることを紹介しておく。
- 昨年度は地域枠学生の離脱が問題となったが、今後とも、モチベーションの維持はさることながら、きめ細かな面談を通じて離脱防止に努めたい。
- 他大学の例で、医師国家試験の合格率が低下し、その原因は学力が担保できていないこととされているところがある。制度を拡大していく際には学力の担保も考慮する必要がある。
- 学力に加え、医学部教育も重要だと考える。

なお、事務局からは次のような情報共有があった。

- 市町村独自に奨学資金制度を設けている備前市、笠岡市、高梁市の地域枠学生（岡山大学以外）に対して、将来、岡山で地域勤務を行う仲間としての交流を目的とした、地域枠学生と自治医科大学生との合同セミナーに参加を呼びかけたが、レスポンスがなかった。3市の地域枠は、県外での研修を認めており、医師として将来地元に戻って地域医療に貢献してもらうという制度設計であり、県の制度とは少し異なるが、引き続き合同セミナーへの参加は呼びかけていきたい。

以 上